

# 山形県連小会報

第163号

発行日 令和4年5月31日

発行者 山形県連合小学校長会

江川 久美子

山形市木の実町12-37

県教育会館(大手門パルス)

## 県連小 第1回理事会 (WEB開催) 報告

### 共に学び合い、活力ある学校経営を

#### 江川久美子会長あいさつ



令和4年度の会長に指名いただきました山形市立第一小学校の江川久美子です。役割の重さを認識し、各地区校長会のご協力をいただきながら努めてまいりますのでよろしくお願いたします。

さて、コロナ感染症対策をしながらの学校経営は4年目に入ります。この間、学校には大きな変化がありました。一人一台タブレット端末の整備が一気に進み、授業の様相が変わったことや学校の働き方改革と相まって教育課程の根本的な問い直しを図る機会を得たことなどです。この機を学校経営にいかにか活かすか、校長の力量が問われました。

このような中、昨年度の県連小研究紀要第65集には、「新型コロナウイルス感染症対応下の学校経営を考える」とのサブテーマを設け、各地区から果敢な実践を寄せていただきました。また、危機管理の情報交換や研修方法の様々な試み等、先を見通せない中でも、その都度、考え合いながら県連小の活動を共に進めてまいりました。コロナ危機は、県連小会員の連携に力強さを増すという結果ももたらしたと言って過言ではないと思っております。

県連合小学校長会は今年度、新入会員44名を迎え、総勢229名でのスタートとなります。組織の目的は「山形県の教育振興」に寄与することです。端的に言えば、校長各自が確かな学校経営を行うこと、専門的職能団体として教育の条件整備を図ることが大きな役目です。

今年度は、校長の学び合う場として、研究協議会米沢大会、理事会や各専門委員会での協議・研修を一層実のあるものにします。研究協議会米沢

大会の副題「人間力に満ちあふれ、社会や地域の持続的発展に貢献できる子どもを育てる学校経営の推進」は今年度の活動方針の重点であり、令和5年度の東北連小研究協議会山形大会につながるものです。「人間力」や「持続的発展に貢献」がキーワードとなる経営実践に学び合いたいと思います。

また、対策委員会で練り上げた「提言」についての実践集を今年度作成します。精力的な実践を出し合い、校長の研鑽の場となることを期待します。

生徒指導委員会においても「インターネット使用に関する提言」が出されました。どの学校にも共通する切実な教育課題への提言であり、事例解決の基は「生徒指導を機能させる」という原点を見失わないように仕組みられています。この提言も学校経営に十分活かしていただきたいものです。

さらに、対策委員会を中心に行う「お願い」の作成については、校長の現状認識の確かさが問われるものです。教育の諸条件や環境整備の改善を教育行政に適切に働きかけられる質の「お願い」に整えてまいりましょう。

来年度は本県にて東北連小研究協議会が開催されます。当該実行委員会は、目的を明確にし、効率の良い組織の動きを実践してくださっています。そこには、「マネジメント」の効いた持続可能な取組への改革があります。ここにも、校長が学べき組織経営があるのに気づかされます。

変化が激しく不確定要素が多い現状での学校経営は、校長が確かな教育理念をもち、高い見識を備えてこそ実現するものです。県連小の取組を十分に活かしていただき、県内の小学校が活力ある教育活動を実践できますよう祈念し、ご挨拶といたします。



第1回WEB理事会

## \* 新副会長あいさつ



未来に向けて

江口 俊和

この度、県連小副会長を務めることになりました山六小の江口俊和と申します。どうぞよろしくお願いたします。県連小の目的として、各地区校長会及び各小学校長相互の連携を密にし、教育の振興を図ることが挙げられます。

私の所属する山形市小学校長会では、一昨年度より教育活動を見直し、子どもと教師の未来に真に大切な教育の仕組みづくりに取り組んでいます。重点として、①人材育成②情報化の推進③特別支援教育の推進④学力向上⑤市全体の事業の持続可能な形態や内容の検討を考えています。それと並行して、令和5年度開催の東北連小山形大会の準備にも取り組んでいます。準備にめりはりをつけて、研修に十分時間をかけることができるように効率的に行うことも1つのポイントになっています。

学校では、正解を求めることができない課題が次々と生じます。教育課題解決への取組や関係機関との協働と人材を育成し、教育課題の改善や学校経営の質的向上を目指す研修とOJTの推進を念頭に置きながら、校長同士が議論を重ねたり研修したりすることが大切です。子どもたちの未来のために、校長としての課題意識をもち、それらを多方面から検討し明確な方向性を示すことができるように、各地区校長会のつながりを密にして、共に高まり合う県連小にしていきましょう。



学校を核とした地域づくり

白林 和夫

このたび、西村山地区理事として、副会長を仰せつかりました。よろしくお願いたします。

2年間のコロナ禍の中、県内の各小学校は、学校や各地区での工夫した取組等の情報をしっかりと共有し、より充実した教育活動につなげてきました。これも、これまでの県連小活動の大きな成果と深く敬意を表する次第です。

一方で地域の子ども会等の活動は、コロナ禍でほとんどが中止となりました。非日常的な場面で多くの地域の方々とかかわる体験的な活動は、子どもたちの生きる力を育む大切な機会ですが、こ

うした特徴がゆえに、不要不急の活動となってしまいます。加えて地域活動の担い手不足といった課題もあり、今後の活動再開の困難さが懸念されます。

現在、県内約4割の小学校がコミュニティスクールとなり、学校・家庭・地域の連携・協働は制度面からは進展していますが、コロナ禍では、地域の方が関わる活動の優先度は低くならざるを得ません。しかし、こうした中でこそ、「学校を核とした地域づくり」の視点も持ちつつ、先進事例に学ばせていただく機会を大切にしたいと考えているところです。

会のテーマである「人間力に満ちあふれ、社会や地域の持続的発展に貢献できる子どもを育てる学校経営」をめざし、江川会長のもと、微力ながら会務に力を尽くしてまいりたいと思います。



子どもたちのために

浅井 純

今年度、最上地区の理事として大役を担うこととなりました。中学校長の経験を活かし、微力ながら精一杯役割を果たして参りたいと思います。

未だ気を緩めることのできないコロナ禍ですが、学校には、山積する教育課題に必死に立ち向かう先生方の姿があります。私自身、着任後僅か一か月ですが、教育活動に真摯に取り組む先生方に、たくさんの感謝と敬意を感じながら日々を過ごしています。

真の学力形成をめざし「主体的・対話的で深い学び」をどう実現していくのか。また、その実現へ向けて、GIGAスクール構想で配備されたICT機器をどう有効活用していくのか。さらに、様々な背景を抱える子ども達の自立をめざし「いじめ・不登校の未然防止」をどう実現していくのか。多くの課題解決が迫られる一方で、「働き方改革」の波が待ったなしで押し寄せている学校状況があります。

こうした難局に直面している今だからこそ、学校を運営する校長が、互いに手を取り合って情報を共有し、建設的に意見を交換する場の必要性を強く感じているところです。個々の力では到底太刀打ちできない難題を目の前に突きつけられている今、江川会長を中心に県連小が結束し、一丸となって前へ進んでいきたいと考えます。全ては、必死に汗を流す先生方を守り、その先にある子ども達の幸福を実現していくために。





学び、磨き、高まる仲間として

菅原 透

教員の最終年に大役を拝命しました。38年前の若さとパワーはかなり薄れたものの、教育への情熱は高まり続け、思いはさらに強くなったように思います。校長の資質と職能を鍛え、伸ばしてくれたのが市町村・地区校長会。それをつなぐ県連小は、山形の校長を育て、山形の子どもの未来を築く組織体です。

私は、管理職になってから、地元を離れる貴重な経験をえました。お世話になった地域の風土や教育文化は新鮮かつ刺激的で、自分の見方・考え方を広げてくれました。たくさんの人との出会いは、自分の心を豊かにしてくれました。初めての土地への不安は、人の温かさであつという間に溶けてなくなりました。その折々に、助けていただいた、教えていただいた、後押ししていただいたからこそ、今の自分の営みが生まれていると確信し、心から感謝しています。

校長のリーダーシップによる特色ある経営で、子どもに力をつけ、教職員を育て、地域の信頼と元気を生み出すことが求められています。それには、コロナ禍の中で、子どもの確かな学びと発達段階に即した体験を保障するマネジメントが欠かせません。校長個々の意欲と才覚に基づく経営手腕を遺憾なく発揮するとともに、多くの人から多くのことを学び、磨き、高まることを大切にしたいものです。江川会長を中心に会員の英知を結集し、県連小活動を充実させてまいりましょう。どうぞよろしく願いいたします



「校長！どうしますか？」

河井 伸吾

今年度、田川地区理事、県連小副会長を拝命することとなりました。よろしく願いいたします。

校長に求められる資質の一番目に判断力・決断力が挙げられますが、コロナ禍でこの力を試されることが本当に多くなりました。「校長、〇〇は実施しますか、延期しますか」「〇〇はこの形で実施していいですか」「学校閉鎖ですか、学年閉鎖ですか」といった類いの判断が日々持ち込まれます。後輩を育てる意味で、こうした案件に対しては「まず、あなたはどうか考えるの?」と切り返すことにしていますが、それでも最終判断には校長が責任を負うことには変わりありません。まさに校長の知力と胆力が問われる時代です。

正しい判断・決断のためには、正しい情報が必要となりますが、それと共に、コロナ禍においてどういう学校づくりをしていくのか、という自らの経営ビジョンを持っている必要があると思います。地区小学校長会、県連合小学校長会には、各校長が判断をするための有力な情報発信機関としての役割があります。それ故に、校長が経営ビジョン深化のために他校の実践から学ぶ場の設定、判断の材料となる幅広い情報を得るための相互の情報交換の場の提供が求められます。

そうした意味で、今ほど地区小学校長会・県連合小学校長会の活動の質が問われる時代はないように思います。微力ながらそうした役割の一端を担えるよう精進して参りたいと思います。

令和4年度 山形県連合小学校長会役員一覧

会長 江川久美子(山形一)	役名	理 事	対 策 委 員	生徒指導委員	研 修 委 員	
	地区					
副会長 江口 俊和(山形六) 白林 和夫(寒河江) 浅井 純(日 新) 菅原 透(荒 砥) 河井 伸吾(朝陽三)	山 形	江口 俊和(山形六)	原田 健男(山形七)	板垣 恵一(ぬはらの丘)	清野 正敏(山形南)	
	上 山	佐藤 法子(上山南)	高橋 徹(宮 川)	遠藤 靖(上 山)	小関 英嗣(中 川)	
	東村山	佐藤 俊徳(山 辺)	新目 巖(荒 谷)	樋口 良彦(高 揃)	小沼裕佳理(山 口)	
	西村山	白林 和夫(寒河江)	小林 聡(溝 延)	石澤 友章(西 里)	原田 浩治(西 根)	
	北村山	田中 敦(東 根)	水田 浩(尾花沢)	高橋 修(富 本)	須藤 真(大 富)	
	最 上	浅井 純(日 新)	石川 周(真室北郡)	武田 久昭(金 山)	小野 一郎(向 町)	
	米 沢	舟山 潤(米沢北部)	鈴木 淳一(上 郷)	佐藤 和江(広 幡)	安部 一博(米沢南部)	
	東置賜	峯 浩明(高 畠)	竹田 洋(大 塚)	鈴木久仁子(二井宿)	沖野 久康(吉 島)	
	西置賜	菅原 透(荒 砥)	樋口 則明(西 根)	丸川 和久(鮎 貝)	高橋 浩(手ノ子)	
	田 川	河井 伸吾(朝陽三)	齋藤 禎行(朝陽五)	奥田 満哉(大 泉)	後藤 克人(余目二)	
	鮑 海	赤坂 宣紀(亀ヶ崎)	齋藤 雄一(新 堀)	宮嶋 弘樹(黒 森)	大塚 優(高 瀬)	
	担当理事			佐藤 俊徳(山 辺)	江口 俊和(山形六)	
	幹 事	幹事長	村上ゆかり(山形四)	金子 孝宏(南沼原)	樋口 潤一(山形十)	太田 千春(大曾根)
		会計	佐藤 浩子(南山形)	佐藤 浩子(南山形)	加藤ゆかり(西山形)	大沼 清司(山形九)
	事務局長 大沼 篤					

## 理事研修会議より

テーマ

教員研修「一人一台端末の効果的活用」について

### 【情報交換の視点】

教師のICT活用能力をさらに向上させていくための教員研修を、どのように位置付け実施していくか。

### 【各地区の現状や課題】（一部抜粋して掲載）

（山形）

それぞれの学校において研修を進めている。若手よりも50代教員に対して研修が必要である。子供たちはタブレットを使いこなし、生かしている。

（上山）

市教育研究所にICT研究委員会があり、取組を情報交換したり、有効な活用方法を共同で研究・開発したりしている。20～30分のミニ研修会を5回ほど実施し、短時間で複数回繰り返す研修は有効であった。

（東村山）

天童市は、研究指定校の寺津小を中心に、研修（実践報告）が進んでいる。山辺町では、昨年度1人1台タブレットが整備され、町教委による研修が始まった。

（西村山）

寒河江市では、昨年度からタブレットを家庭に持ち帰っての学習を進めている。西川町では、毎月1回タブレット学習デーを設定し、一斉に取り組んでいる。河北町では、ICT支援員の活用が充実し、教員が意欲的に学んでいる。

（北村山）

北村山視聴覚教育センター指導主事が様々な提案をしている。使わざるを得ない状況になったことで、ブレイクアウトルーム機能を活用できるようになった。

（最上）

最上地区ではICTの研究指定校もあり先進的な取組を行っているが、学校間に差がある。これらの差を埋めていくことが校長の仕事ではないかと確認した。

（米沢）

2つの小中学校に配置されたICT専門員が、学校の先行実践事例及び関連資料を定期的に行われるICT担当者会で共有し、各学校で活用している。

（東置賜）

南陽市では、ICT活用推進委員会において各学校の代表者が研修を受け、伝達している。また、昨年11月に教職員による研究発表会があり、ICTを活用した実践事例が発表され、関心が高まっている。

（西置賜）

使わざるを得ない状況によってICTを活用する必要性を感じ、機能を使えるようになっていく。低学年の持ち帰りの進め方が課題である。

（田川）

令和2年度に寺津小学校長を講師として招聘し、校長会としての研修を行った。Teamsを中心として家庭での活用が進んできている。

（飽海）

酒田市には情報教育推進室があり、担当指導主事に相談できるようになっている。オンライン授業をすべての学校で対応できるよう進めている。

## 県教育委員会のご指導

- ◎ 県教育庁教職員課長 須崎智志 氏  
（令和4年度 教職員課重要施策）
- 「働き方改革」の推進・優れた教員の確保・信頼される学校づくり
  - 1 学校における「働き方改革」の推進
    - (1) 勤務時間に関する意識啓発と管理の徹底
    - (2) 教員が担うべき業務の明確化と適正化に関する取組
    - (3) 適切な部活動運営の推進
    - (4) 教員の事務負担の軽減
    - (5) 保護者・地域への周知と地域人材の活用
  - 「限られた時間の中で最大限の教育効果を発揮する教職員集団」を目指す！
  - 2 適正のある優れた教員の確保（優秀な教員の確保）
    - (1) 教員を取り巻く環境の変化に対応できる優秀な教員の採用
    - (2) 若手教員の育成（若手教員育成ハンドブックの活用）
    - (3) 多様化する課題に対応できる学校経営能力に優れた管理職の登用
    - (4) 女性管理職の積極的な登用・ミドルリーダーの育成
  - 3 「信頼される学校づくり」の推進
    - (1) 勤務規律の徹底
    - (2) 教職員のメンタルヘルスとストレス管理に配慮した学校運営への支援
- 子どもたちの笑顔のために無意識に不祥事防止を徹底できる教職員集団を目指す！

### 4 諸課題等

- (1) 教職員免許状制度の運用
  - (2) 勤務制度、勤務条件の整備、会計年度任用職員制度の適切な運営
  - (3) 懲戒処分等の実施
  - (4) 公務災害補償の認定等
  - (5) 給与・退職手当制度の管理、支給に関する指導等
  - (6) 定年延長制
- ### 5 年度始めの確認事項
- (1) 「特別支援教育多忙化解消5項目」「業務縮減11項目」を「手引き」で確認
  - (2) パワハラ・セクハラ等に関する指導の徹底について
  - (3) 勤務時間・休憩・休暇制度等について

### ◎ 県教育庁義務教育課長 石原敏行 氏（紙面でのご指導）

- 1 概要
  - (1) 学校数 321校（前年比-4校）
  - (2) 児童生徒数 約74,600人（前年比-1,800人）
- 2 説明・報告
  - (1) 令和4年度主要事業について
  - (2) ICT教育推進拠点校における実践事例
- 3 お問い合わせ
  - 新型コロナウイルス対応に係る心のケア
  - 不登校児童生徒への適切な対応